

2022年
暦年

県内景況・確報

◎概況 県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで回復しつつある。

●2022年暦年 おきぎん「カトリア」景況図●

県内景況



ふつう

個人消費



ふつう

建設関連



ふつう

観光関連



やや悪い

企業倒産



やや良い

雇用状況



ふつう

2022年暦年の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに2年ぶりに前年を上回りました。百貨店売上高は4年ぶりに前年を上回りました。耐久消費財である新車販売台数は3年連続で、中古車販売台数は4年ぶりに前年を下回りました。

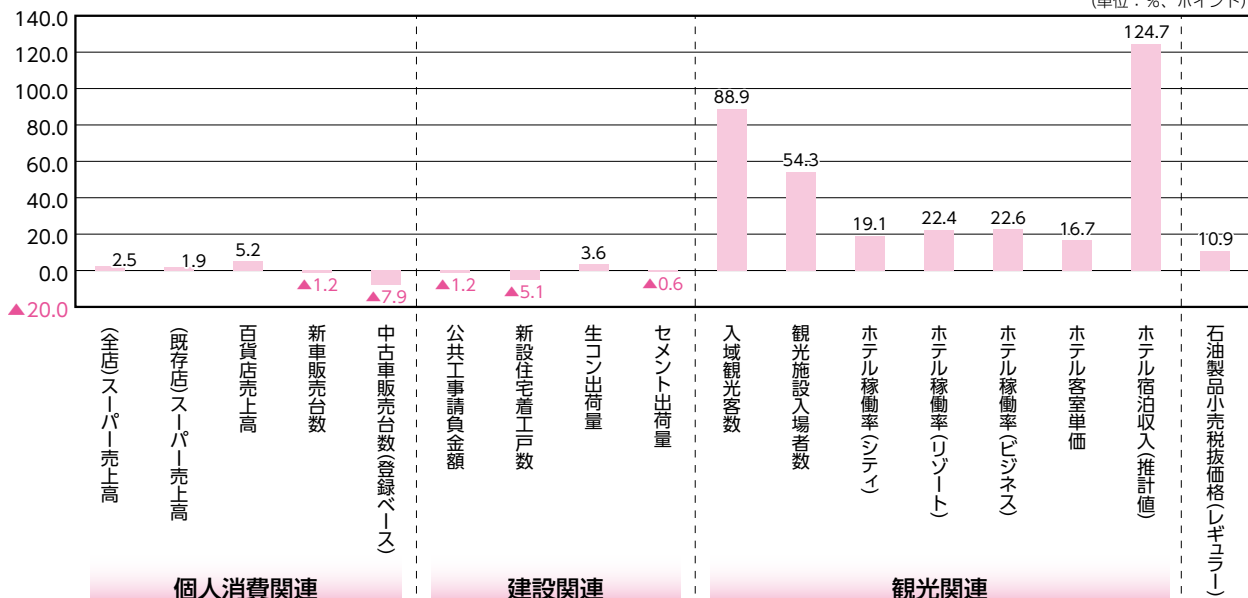
建設関連では、公共工事請負金額は2年ぶりに前年を下回りました。新設住宅着工戸数は4年連続で前年を下回り、建設資材である生コンは3年ぶりに前年を上回り、セメントは3年連続で前年を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は3年ぶりに前年を上回り、観光施設入場者数は5年ぶりに前年を上回りました。ホテル稼働率について、シティホテルは7年ぶり、リゾートホテルは5年ぶり、ビジネスホテルは5年ぶりに前年を上回りました。ホテル客室単価は3年ぶりに前年を上回り、宿泊収入（推計値）は4年ぶりに前年を上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費は物価高の影響を受けながらも回復しつつあり、観光関連は、新型コロナウイルスの影響が和らぐもと、全国旅行支援の実施などで回復しつつあります。建設関連は、民間工事に持ち直しがみられるものの、弱い動きが続いています。よって、「**県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで回復しつつある**」と景気判断をしました。

主要景気指標前年同期比

(単位：％、ポイント)





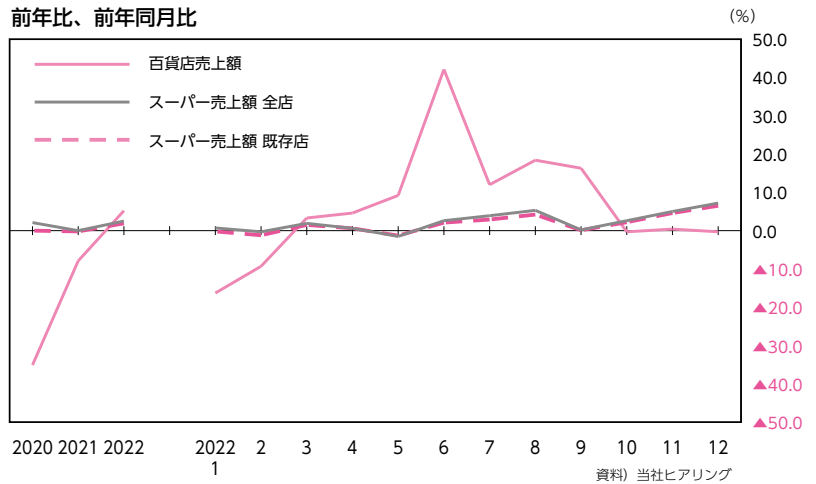
個人消費



(ふつう)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年を上回り、百貨店売上高も前年を上回る。

2022年の個人消費関連は、スーパー売上高「全店ベース（前年比2.5%増）」は、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和し、人流増加による来店客数の増加が見られたことや一部物価高の影響などにより前年を上回りました。品目別では、「食料品（同2.4%増）」、「衣料品（同3.7%増）」や、家電を含む「家庭用品（同4.2%増）」共に前年を上回りました。

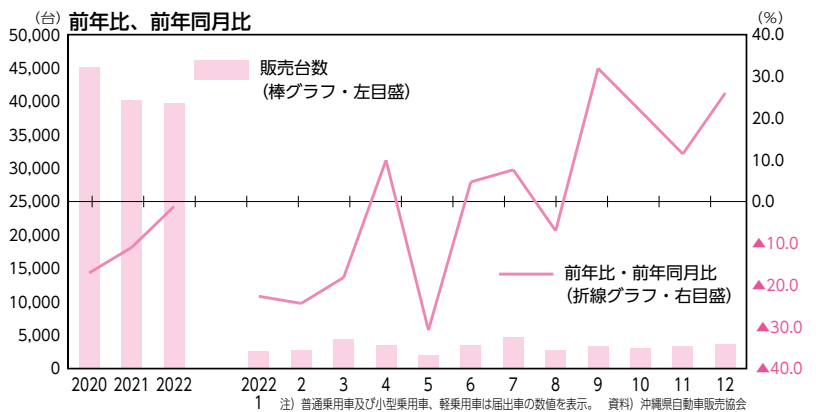


2022年の「既存店ベース（同1.9%増）」は、前年を上回りました。品目別では、「食料品（同1.9%増）」、「衣料品（同4.0%増）」、「家庭用品（同1.7%増）」は、新型コロナウイルス感染症の影響緩和により、店舗への来客数が増加したことや物価高騰の影響による単価上昇などにより、前年を上回りました。（参考値）コロナ禍以前の2019年比では、3.5%増となりました。

2022年の百貨店売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、観光客を含む来客増加が見られたことや前年までの反動などにより前年を上回りました（同5.2%増）。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品（同4.7%増）」は、新型コロナウイルスの影響緩和に伴う旅行や出張などの外出需要増加などにより、前年を上回りました。「食料品（同6.7%増）」は、催事企画の再開や来店客数の増加に伴う買い回りの好調、一部物価高の影響などにより前年を上回りました。（参考値）コロナ禍以前の2019年比では、全体で37.1%減となりました。

② 新車販売台数…新車販売台数は前年を下回る。

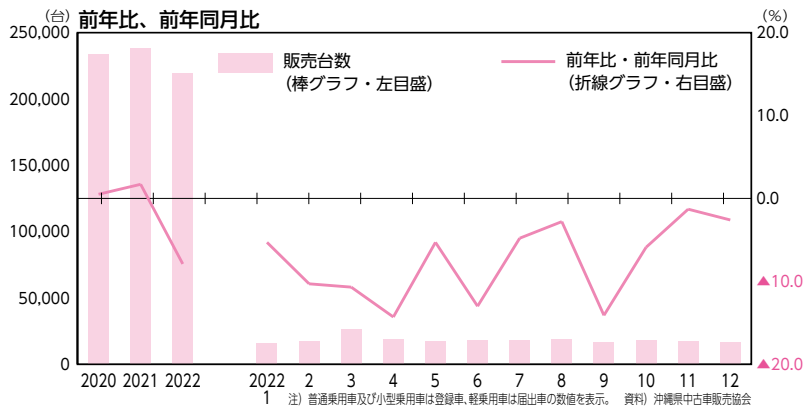
2022年の新車販売台数は、全体で39,784台（同1.2%減）となり、前年を下回りました。車種別では、「普通乗用車（同0.4%増）」、「小型乗用車（同29.5%増）」はレンタカー需要の増加や、下半期にかけて供給制限に一部緩和の動きが見られたことなどにより前年を上回りました。「軽乗用車（同11.8%減）」は、供給制限の影響などにより、前年を下回りました。



（参考値）コロナ禍以前の2019年比では、全体で27.0%減となりました。車種別では、普通乗用車17.7%減、小型乗用車33.2%減、軽乗用車31.7%減となっています。

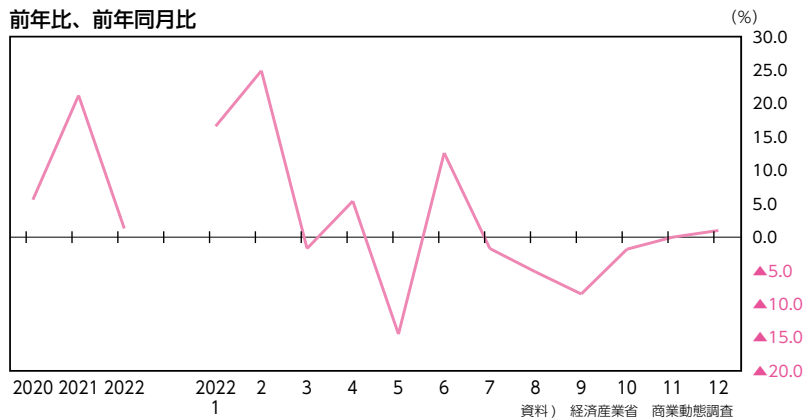
③ 中古車販売台数…中古車販売台数は前年を下回る。

中古車販売台数（登録ベース）は、全体で219,167台（同7.9%減）となり、前年を下回りました。車種別では、「乗用車（同9.9%減）」、「軽自動車（同6.6%減）」ともに市場の供給減少に伴う価格高騰などにより、前年を下回りました。
 （参考値）コロナ禍以前の2019年比は全体で5.9%減となり、車種別では乗用車6.7%減、軽自動車5.3%減となりました。



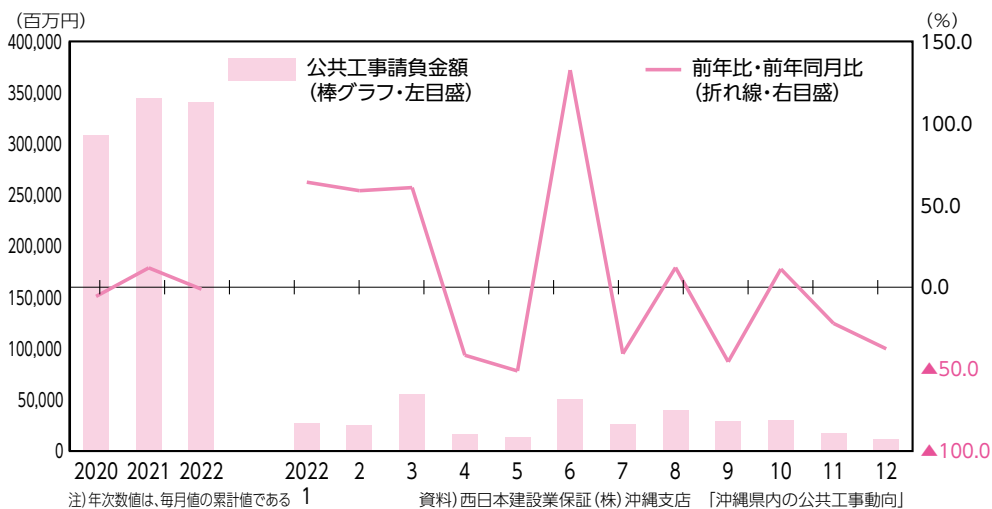
④ 大型家電専門店販売額…販売額は前年を上回る。

2022年の**大型家電専門店販売額**は前年を上回りました。



建設関連 (ふつう)

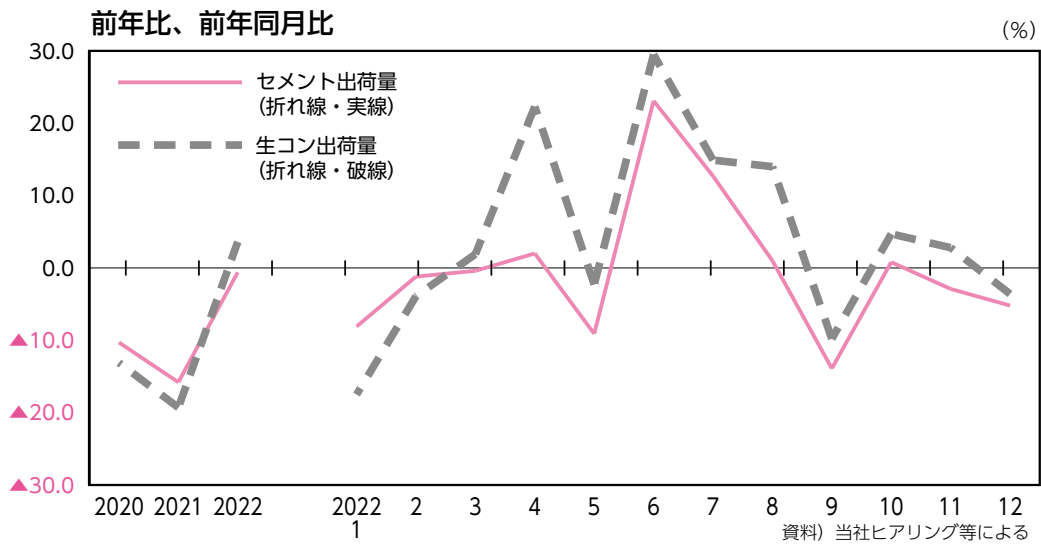
① 公共工事…公共工事請負金額は前年を下回る。



2022年の**公共工事請負金額**は、前年比1.2%減の3,403億5,100万円となりました。発注者別で見ると、「市町村（同24.0%減）」、「沖縄県（同1.3%減）」は前年を下回りました。一方、「国（同9.2%増）」、「独立行政法人等（同74.5%増）」、「その他の公共的団体（同7.7%増）」は前年を上回りました。

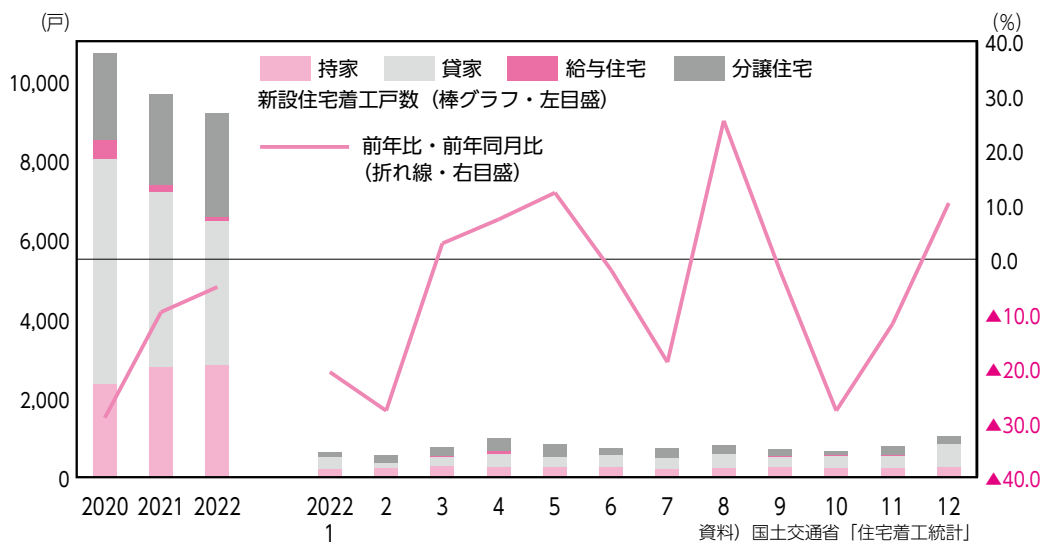


② 建設資材…生コンは前年を上回り、セメントは下回る。



2022年の**建設資材関連**では、**生コン**の出荷量は3.6%増と前年を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷は前年を9.8%上回り、民間工事向け出荷は0.3%上回りました。**セメント**出荷量は0.6%減と前年を下回りました。

③ 新設住宅着工戸数…着工戸数は前年を下回る。



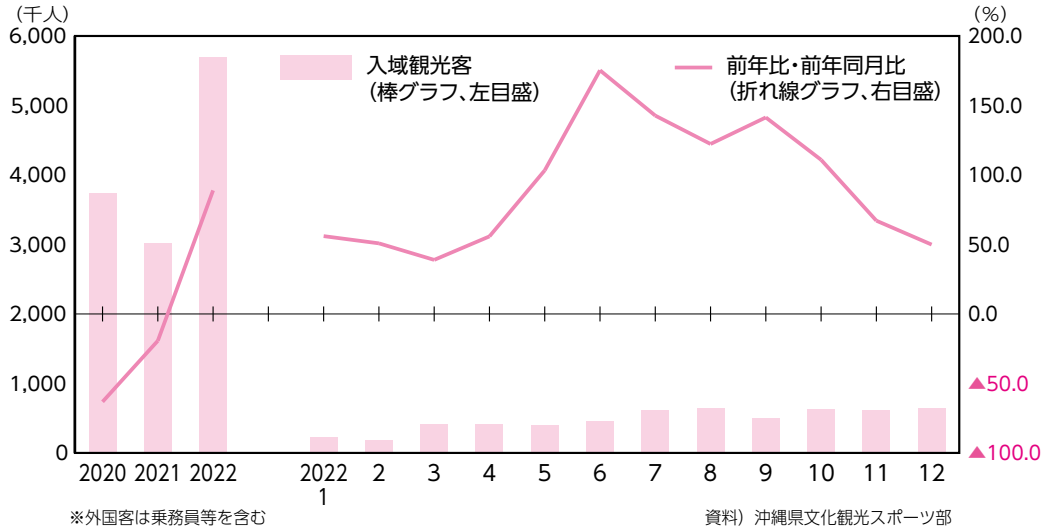
2022年の**新設住宅着工戸数**は、全体で9,179戸となり5.1%減と前年を下回りました。利用別戸数を見ると、「貸家 (同17.1%減)」、「給与住宅 (同55.7%減)」は前年を下回りました。一方、「分譲住宅 (同14.5%増)」、「持家 (同1.4%増)」は前年を上回りました。

観光関連

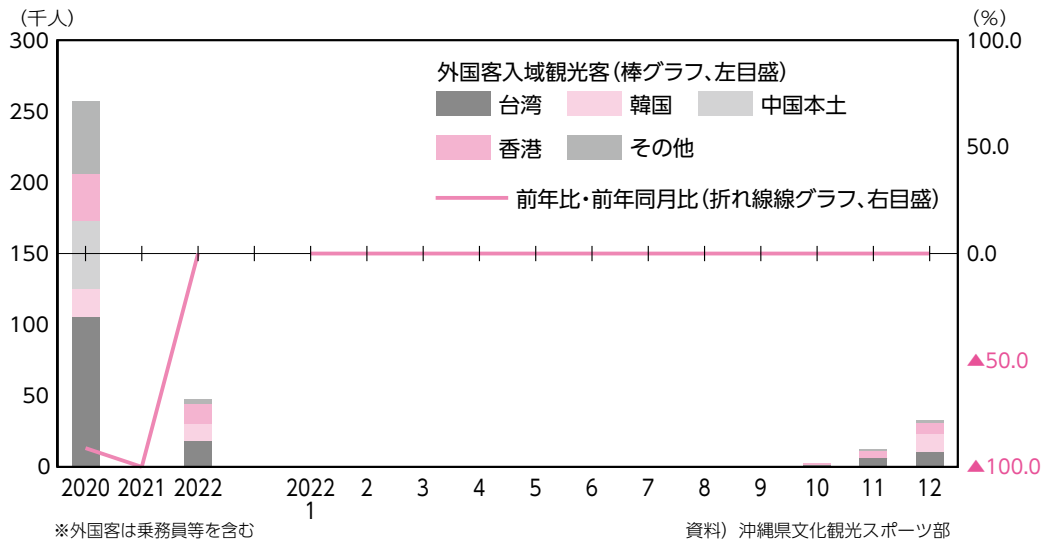


(やや悪い)

① 入域観光客数(国内客・外国客の合計)…前年を上回る。



外国客 入域観光客数…47,700人となる。

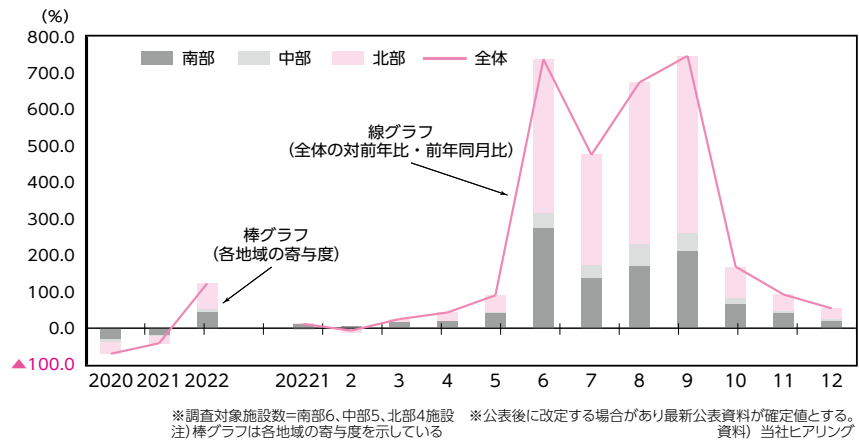


2022年の入域観光客数は、596万7,800人(前年比88.9%増)となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により1月から2月にかけて「まん延防止等重点措置」がとられたものの、以降、行動制限のない状況が続き、10月からは全国旅行支援も実施され国内旅行需要が大幅に増加しました。一方、「外国客」は、47,700人となり、入域は2年振りとなりました。日本への入国制限措置の適用が10月より大幅に緩和され、路線の再開がみられます。今後、緩やかな回復が見込まれています。



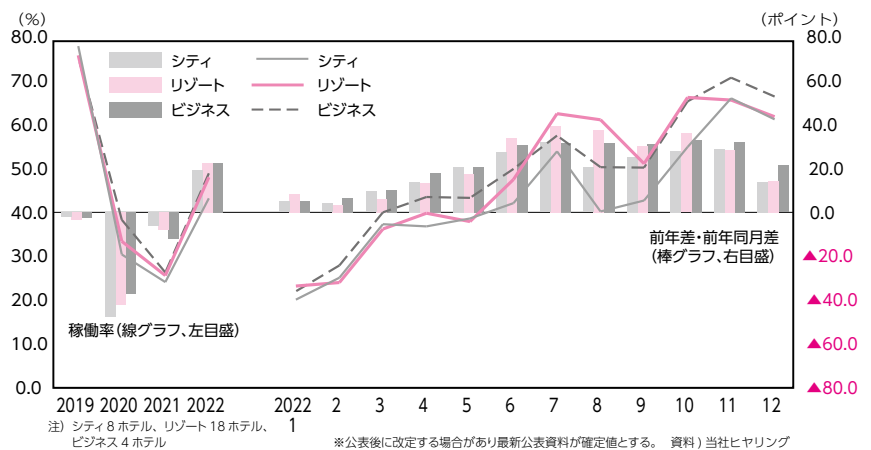
② 観光施設入場者数…前年を上回る。

2022年の観光施設入場者数は、行動制限のない状態が続いたことなどから、全体で前年比122.7%増加し、前年を上回りました。地域別にみると、南部にある観光施設は前年比146.6%増、中部は同71.1%増、北部は同121.3%増と、前年を上回りました。



③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年を上回る。

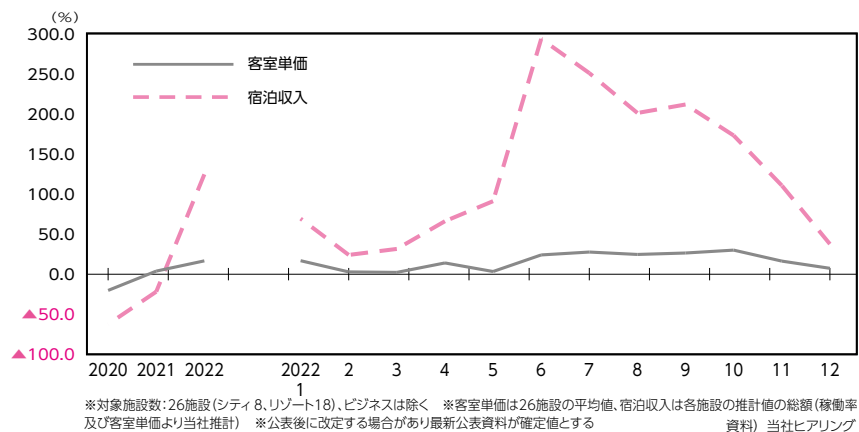
2022年の県内ホテル稼働率は、シティホテルが43.2%と前年差19.1ポイント上昇、リゾートホテルが48.0%と同22.4ポイント上昇、ビジネスホテルが48.9%と同22.6ポイント上昇しました。コロナウイルス感染症の影響が和らぐもと、全国旅行支援の実施などもあり前年を上回りました。



④ ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年を上回り、宿泊収入は上回る。

2022年のホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年比16.7%増と前年を上回りました。宿泊収入は同124.7%増と前年を上回りました。

シティホテル、リゾートホテルともに宿泊需要の高まりなどにより、客室単価は増加しています。稼働率についても増加しており、宿泊収入は前年を上回りました。





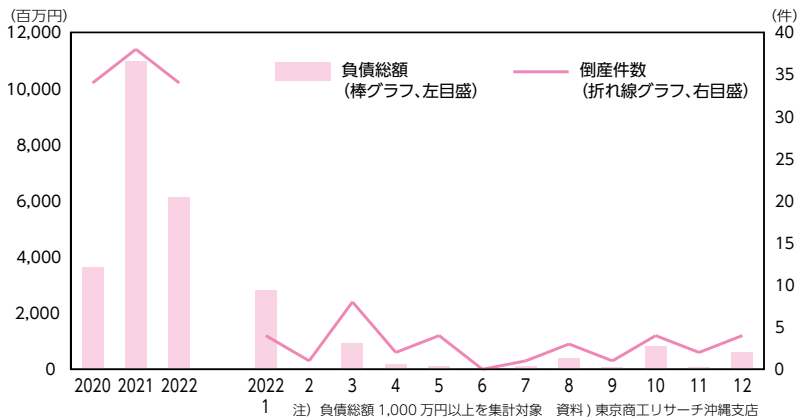
企業倒産



(やや良い)

① 企業倒産…倒産件数、負債総額はともに前年を下回る。

2022年の**企業倒産件数**は、34件（うち10億円以上の大型倒産は1件、うち1億円以上10億円未満の大口倒産は11件）となり、前年を10.5%下回りました。**負債総額**は61億2,000万円となり、前年を44.3%下回りました。



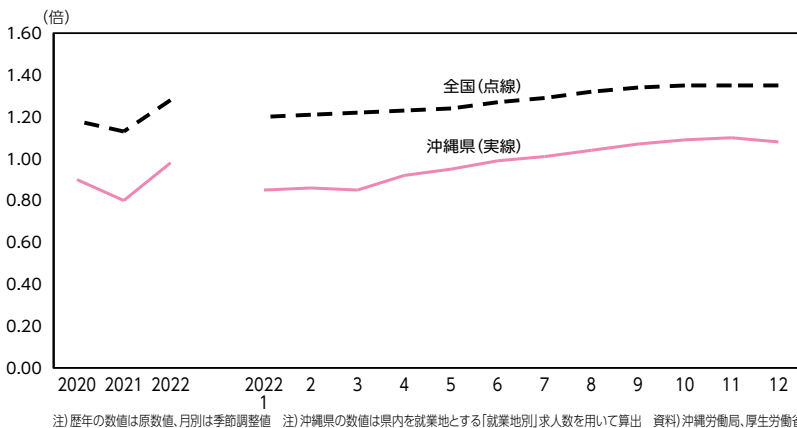
雇用関連



(ふつう)

① 有効求人倍率…沖縄県、全国はともに前年より上昇。

2022年の**雇用状況**は、有効求人数（月平均）は前年比25.4%増の30,684人に対して、有効求職者数（同上）は前年比2.8%増の31,446人となり、**有効求人倍率（同上）**は0.98倍と、前年より0.18ポイント上昇しました。



② 完全失業率…沖縄県、全国はともに前年より低下。

2022年の**完全失業率（原数値平均）**は、3.2%となり前年より0.5ポイント低下しました。

